

2019年結核登録者情報調査年報集計結果の解説 - 9月24日～30日は結核予防週間です -

結核は空気感染する感染症で、世界人口の約1/5が感染し、年間1000万人が発病、150万人が死亡する世界10大死因の1つ。世界最大の感染症です。薬剤耐性(AMR)やHIVに関連する主な死因で、社会・経済的問題と結びつく地球規模課題です。

日本においても結核は、年間約2万人が発症する最大級の感染症で、未だ中蔓延国と位置づけられています。患者の多くが、結核以外の余病を持った高齢者で、診断、治療が困難、その一方、都市では若い人々や社会的・経済的に弱い立場にある人々の間に患者発症が目立ちます。最近では特に20代の結核発症の約半分が外国生まれで増加傾向にあるなど海外からの結核の流入も懸念されています。

世界では、「2030年までに結核を終息すること」を持続可能な開発目標(SDGs)の目標に定めています。世界の努力によって2000年から2018年の間に5800万人の命が救われ、結核による死者は38%減少しました。しかし新型コロナウイルス感染症の対応のための様々な緊急措置の影響により、結核対策に混乱が生じ、2025年までに140万人が過剰に結核による死亡するとの予測もあり、結核終息に向けた進捗の遅れが問題となっています。

結核登録者情報調査年報集計は、全国の保健所を通じて報告される結核登録者の状況(2019年1月1日～12月31日)を厚生労働省が取りまとめ公表しているものです。その結果をふまえ昨年の概況を解説します。

日 程： 8月24日 10:00～11:00

場 所： 厚生労働省記者会

- ① 2019年結核登録者情報調査年報集計のポイントと新型コロナウイルス感染症の日本の結核への影響
加藤誠也(結核研究所所長、ストップ結核パートナーシップ日本理事)
- ② 世界的に見た新型コロナウイルス感染症の結核への影響
森 亨(結核研究所名誉所長、ストップ結核パートナーシップ日本代表理事)
- ③ コメント
江浪武志(厚生労働省健康局 結核感染症課長)

会見は、取材申込者が5名を超える場合には、会見室での対面形式(会場先着5名まで)での取材のほか、会見室からオンライン(ZOOM)での配信も行います。取材の申込は、下記Eメールアドレスに、8/20までにお申し込み下さい。メールで資料、URLを前日までに配布します。

トピック：結核年報集計結果厚生労働省記者会見
時間：2020年8月24日 10:00 AM 大阪、札幌、東京
Zoom ミーティングに参加する

<https://zoom.us/j/94079580944> ミーティング ID: 940 7958 0944

会見申し込み / 問い合わせ

ストップ結核パートナーシップ日本(STBJ) (担当) 宮本
TEL 03-5282-3010 FAX 03-5980-8267 Eメール ayakomiyamoto@stoptb.jp